

岐阜産農産物

県、パリで販売協力覚書

飲食店と締結 海外販路を拡大

【パリ＝本社・河合修】県産農産物の海外販路を広げようと、県は11日(現地時間)、海外の食材を豊富に扱うパリ市内の飲食店「ダローザ」と販売協力に関する覚書を結んだ。フランス訪問中の古田肇知事が同日、オーナーのジョゼ・ダローザ氏(52)と署名を交わした。今後は柿などを使ったメニュー開発やテスト販売を同店と連携して進める。

同店は、ジョゼ氏がにレストラン2店舗 国内の有名レストラン 覚書では、同店を県手掛けるショップ兼レを展開。海外からの食に食材を卸しているの海外販路の拠点店舗として位置付け、高級材を店内で扱うほか、る。

柿など県産農産物を使ったメニュー開発やテスト販売の結果報告などを求めている。締結の場にはJ A全農岐阜の桑田博之本部長らが立ち会った。ジョゼ氏は「岐阜の農産物の大使になれたのは幸せ。県産農産物の売り上げが伸びるよう支援したい」と述べ、古田知事は「素晴らしいアンバサダーを持つことができた。協力に感謝したい」と話した。

覚書の署名を交わしたジョゼ・ダローザ氏(右)と古田肇知事＝フランス・パリ市内、ダローザ・サンジェルマン店



知事が仏大統領に“直談判”

フランス訪問中の古田肇知事は10日夜(現地時間)、パリ市内の飲食店「ダローザ」を訪れたマクロン大統領と偶然会う機会があり、非公式ながら「トッブセールス」が実現する形となった。フランスでの販路を広げる県のブランド牛「飛騨牛」の話題で盛り上がり、大統領も「一度、食べてみたい」と関心を示したという。

マクロン大統領は以前から常連として同店をたびたび訪れて

「飛騨牛に興味」と手応え

おり、10日夜は私用でブリジット夫人と食事を楽しんでいたという。同店を訪れた古田知事があいさつを兼ねて飛騨牛をPRしたところ、興味深そうに聞き入り、大統領主催の夕食会で飛騨牛を使いたいと話を持ちかけてきた。古田知事は「大統領が飛騨牛に非常に興味を持っていた。これを機に、フランスでの飛騨牛の格付けが高まれば」と話していた。